

「第2回今後の自動車事故対策勘定のあり方に関する検討会」資料

NPO 法人日本高次脳機能障害友の会

古謝由美

自動車事故による死者数は減少しつつありますが、救命救急医療のおかげで助かる命も増えてきました。

死の縁から復活してきた当事者を見守ることは家族にとって希望にも似た思いで看病をします。

しかしながら命は助かったものの、重い後遺症が現実としてのしかかってきます。高次脳機能障害（児）者、を始め遷延性意識障害者、脊髄損傷者は決して減ってはいません。

私たち高次脳機能障害者は外見上、障害が解りにくく、人間に取って一番大切な脳を損傷することで困難と向き合って一生を過ごすこととなります。

その為、被害者救済対策として高次脳機能障害（児）者の社会復帰に向けて、入院期間も含め様々なリハビリや介護者亡き後など多くの支援が不可欠です。

事故を減らす事は死者数を減らすこと、重度後遺障害者を減らす事へと繋がっていきます。

私たち自動車を運転する者が1人1人安全運転を心がけることが大切ですが、事故発生防止対策として安全走行を目指す車両開発などにも力を入れて頂きたい。また、移動手段として手軽に乗れる自転車による事故も増加傾向にあります。この様に今、身近に起きている交通事故の変化にも対応すべきである。

その為には資源の確保として一般会計からの繰り戻し金も大臣間における合意を確実に更新して頂きたい。

また、被害者救済対策を安定的に実施していくため、繰り戻し金だけではなく、安定した財源の確保に向けて皆で考えていきたいと思います。